

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果より

調査の目的

各領域における児童の学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や、学習状況の改善などに役立てます。

調査の内容について

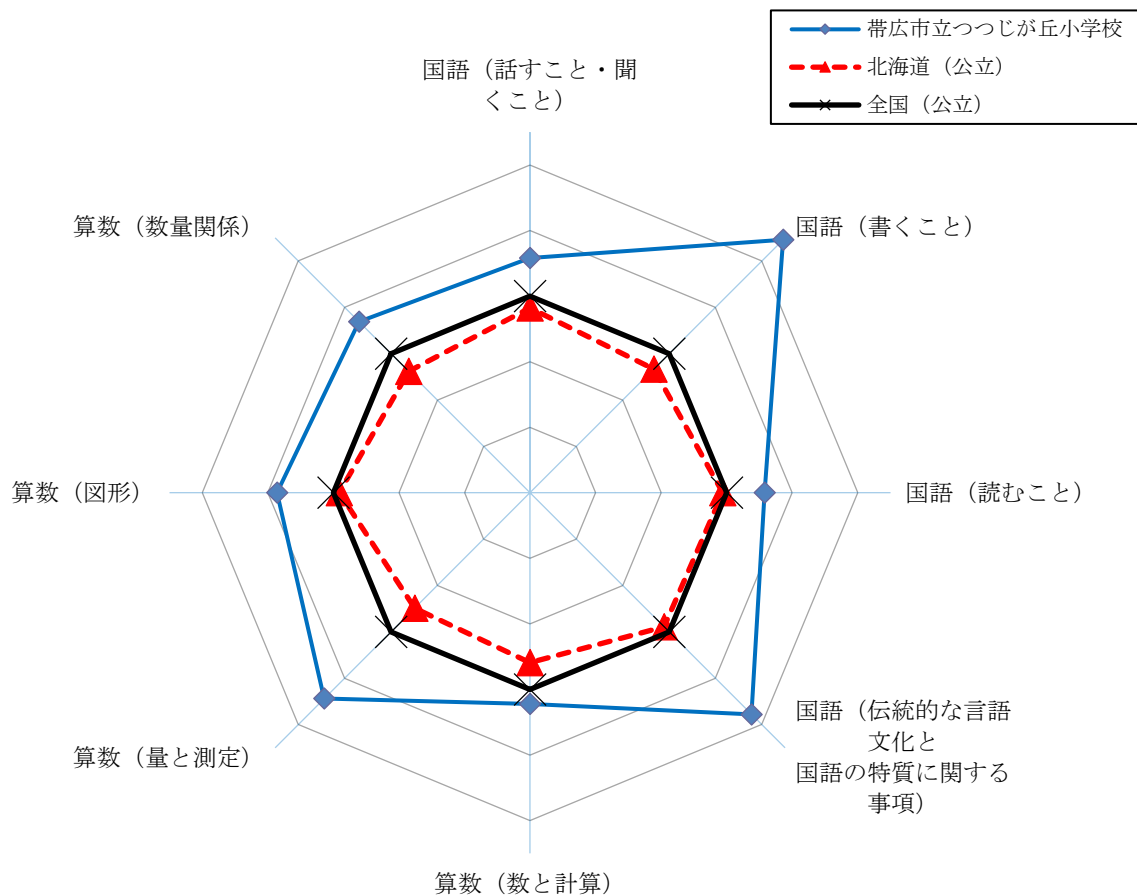
①教科に関する調査[国語・算数]

- ・ 身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容。
 - ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識や技能など。
 - ・ 知識、技能などを実生活の様々な場面に活用する力に関わる内容。
 - ・ 様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力に関わる内容。
- ※上記を一体的に問う内容となっています。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容の調査。

つつじが丘小学校の調査結果（教科）の分析について



〈国語〉

全国・全道と比較して高い結果となった。その中でも特に、「書くこと」の正答率が高い結果となった。「話すこと」「読むこと」については、他の領域より下回るものの、全道平均よりも高い結果となった。

◇「調べたことを【報告する文章】の書き方の工夫として適切なものを選択する」「ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する」などの選択式の問題、「漢字を使って書き直す」などは高い正答率であった。手がかりが示されていたり、既習の内容を活用したりする問題には思考を働かせて主体的に取り組む姿勢が身につけてきていると判断できる。

◆「登場人物の思いや考えに着目して心に残ったことを書く」「2文に分けて書き直す」などの記述を求められる問題の正答率が概ね下回った。このような問題は、読書量にも影響をおよぼす。家庭での読書量を増やしたり、読書を習慣化したりする啓発を図る必要がある。

〈算数〉

全体的に全国・全道と比較して高い結果となった。領域では「図形」「量と測定」は全国・全道比で高い正答率であった。反面、「数と計算」「数量関係」については、先の2領域より低い結果となった。「数と計算」「数量関係」については、昨年度のCRT学力検査でも苦手な傾向が見られており、課題と言える。

◇「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く」「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」については全道・全国と比較しても高い正答率であった。グラフの活用、読み取りについては学習の成果が見られた。

◆「洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する」「減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く」のように「式と計算」の中でも「四則混合の計算」に関わる問題は、全国・全道よりも正答率が下回った。「四則混合の計算」については意味理解も大切であるが、多くの問題に触れることで正答を導き出せるようになる。家庭学習で意識的に取り組むことで、より理解が深まると考える。

児童質問紙の調査結果の分析について（学習編）

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている子が多い。また、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した子も多い。

●「算数の勉強が好きだ」「算数の授業がよくわかる」と回答した子の回答率が下回り、算数への関心はあるが苦手意識を強くもっている子が多いと考えられる。

●「自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示すなど、工夫している」「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」などの回答率も下回り、「しっかり」と考えて「じっくり」取り組むことに苦手意識が高いと考えられる。

●家庭学習の時間、読書量も全国、全道の回答結果と比較すると下回る結果が見られます。見通しをもった計画的な取組が必要である。

児童質問紙の調査結果の分析について（生活編）

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した子が多い。どの子にも「居場所」があり、安心感のある環境が整っていると考える。
- 「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子が多く、将来への見通しをもって現在の活動に取り組むことができていると考える。
- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した子がとても下回る傾向が見られる。自分の「良さ」に自信がもつことができている子が多いことが考えられる。個々が集団の中に「居場所」を見つけているので、様々な場面でより友だちと上手に関われるようになっていくことが課題であると考えられる。

お知らせ

学校では

- ・学習規律の定着・ ・今年度も機会があるごとに「学びの11カ条」を生かした学級づくりをするよう全校で確認をしてきています。学習へ向かう態度が安定してきているので、更に定着できるよう取組を進めていきます。
- ・読書の習慣化・ ・ ・朝読書に加え、教科の中でも本に触れる機会を増やしたり、読み聞かせを活用したり、工夫して指導を進めていきます。
- ・「書く」こと・ ・ ・ ・文章に書く経験を定期的に積み重ねていきます。徐々に文章量も増やしていけるよう取り組んでいきます。
- ・少人数指導の活用・ ・算数の課題として考えられる領域については、少人数指導を有効に活用し、これまで以上に理解を高めていきます。
- ・考える時間の確保・ ・学習課題に対して「自分なりの考え、答え」を導き出し、友だちの考えや答えを比較しながら、思考が深まるよう、授業の進め方を工夫して取り組みを進めます。

ご家庭では

- ・学習習慣・ ・ ・ ・学習時間を決め、家庭学習や宿題を継続的に取り組めるような習慣づくりにご協力をお願いします。また取り組む時間も徐々に増えるような働きかけもお願いします。内容は「四則混合の計算」はもとより、テストに向けての学習、テストの復習、その日の復習など特別なことではなく、日常の中のもので取り組みましょう。
- ・生活習慣・ ・ ・ ・朝ご飯、家庭での読書など、もう1度、お子さんと見直しをして家族での読書時間を確保するなどのご協力をお願いします。
- ・学校との連携・ ・ ・行事等へのご協力は、これまで通りお願いいたします。また、学校から発行されたプリントに目を通し、提出物の確認など前向きな協力をお願いします。